

## 大樹・シカ駆除実証実験「ジュラテクノロジー」

# 初のハンター講習

## ドローン操縦や加工指導

【大樹】「ジュラテクノロジー」(本社町晩成、富田茂社長)は25日までの3日間、町内で「森のハンター講習所」を初めて開いた。幅広い知識を持つ狩猟技術者を養成することが目的で、ドローン(小型無人飛行機)などを活用した最新の捕獲法から、衛生面に配慮した食肉加工まで、多岐にわたる分野の学習が盛り込まれた。



くくりわなの設置方法を指導するジュラテクノロジーの社員(右)

同社はキャリアオ技研(本社名古屋、富田茂社長)

大樹営業所の一部事業を2018年11月に法人化した企業。キャリアオ技研はドローンによるシカ駆除の実証実験に取り組み、18年3月に大樹、広尾、幕別の3町と連携協定を結んでいる。

講習では、ジュラテクノロジーが行っているドローンによる野生鳥獣の制御やエゾシカの食肉加工のノウハウを提供し、安全な捕獲と食の流通ができるハンターを育てることを目指す。今回は東海地方から30代の男性会社員2人が参加。

狩猟免許や獣医師の資格を持つ同社社員が講師を務め、野生鳥獣の生態や特有の病気、ドローンの操縦法、ジビエとして出荷するための衛生処理や解剖などを座学と実習を通して学んだ。

くくりわなや、赤外線センサーで熱を感じる定点カメラの設置は、雪深い山野で実際に行い、受講者は真剣な表情で設置時の注意点やクマへの警戒などに耳を傾けていた。受講した愛知県男性は「狩猟免許を持っているが、実際に猟を行ったことはなかった。今はテクノロジーで補完していることが分かった」と話していた。同講習は通年で実施する。同社は「より専門的な内容を指導したい」としている。(松村智裕)